

第3学年 音楽科

題材名 リコーダーとなかよしになろう

教材名 「小鳥のために」「かごめかごめ」「なべなべそこぬけ」
「メリーさんのひつじ」「そよ風」

題材の目標

リコーダーの美しい音色を感じ取り、音色と演奏の仕方との関わりに気付き、曲想や旋律の特徴を生かした演奏の仕方を身に付ける。

(知識及び技能)

旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現を工夫しながら、思いや意図をもって演奏することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

友達と協働して、旋律の特徴や曲想にふさわしい演奏をする活動に主体的に取り組んでいる。

(学びに向かう力、人間性等)

指導のポイント

3年生は、リコーダーを初めて手にし、ワクワクしている。この気持ちを大切に育みながら、基本的奏法を着実に身に付けさせ、主体的に音楽を楽しむ態度を培っていきたいと考える。

左手の運指のみで演奏できるソ、ラ、シ、ド、レの五つの音を使った教材を用い、段階的に学習を進めていく。始めにリコーダーの美しい音色が味わえる鑑賞の活動を設定し、その音色や響きに憧れを抱かせ、演奏したいという思いをもたせたい。リコーダーの奏法を身に付けさせるために、まねっこやリレー奏、グループ学習など様々な活動を組み合わせ、音や言葉での対話を通して、奏法の習得をさせる。そして、身に付けた技能を活用するアンサンブルに取り組ませ、友達と協働して音楽表現をする喜びも味わわせる。まとめでは、自分たちの思いや意図を表したアンサンブルを発表し合い、友達の演奏のよさや工夫して演奏する楽しさに気付かせ、これからの器楽の表現活動への意欲につなげていきたいと考える。

本時では、演奏方法の違いによる音や音楽の変化を実感させ、思考を働かせて曲にふさわしい演奏を追求させていく。曲から感じ取ったイメージと旋律の特徴や音楽の構造をつなげ、タンギングの仕方や息の使い方を試行錯誤させながら、工夫して演奏することに取り組ませたい。また、演奏の工夫をすることで多様な表現につながることに気付かせたい。本時で得た知識や技能を生かして、どのように演奏するかについて自らの思いや意図をもち、友達と協働して表現を工夫するアンサンブルにつなげたい。

題材の指導計画

	児童の学習活動	指導上の留意点
1	<p>○リコーダーの音色の特徴や響きを聴き取り、基本的な演奏の仕方を知る。</p> <p>・「小鳥のために」</p>	<p>・小鳥の鳴き声を想像させる軽やかな音色や旋律の音の動きを聴き取りながら、リコーダーの音色や響きのイメージをもたせるようにする。</p>

2	<p>○リコーダーの基本的な奏法を身に付ける。【ソ・ラ・シ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なべなべそこぬけ」（2小節） ・「かごめかごめ」（2小節）など平易な旋律を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構え方や運指を見せて、リコーダーの基本的な奏法を理解させる。 ・まねっこ（吹き真似遊び。以下「まねっこ」と記す。）を通して、リコーダーの演奏に親しませる。 ・知っているメロディーを階名唱し、「まねっこ」をさせながら、発展的に平易な旋律奏ができるようにする。
3	<p>○息の使い方やタンギングの仕方によって音色が変化することを感じ取る。【ソ・ラ・シ・レ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「メリーさんのひつじ」を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レをシに代用した「メリーさんのひつじ（練習版）」を演奏した後、「メリーさんのひつじ」（レを含む）の歌詞唱と階名唱をして曲に親しませる。 ・様々な息の使い方やタンギングの仕方を試させながら、音色や音程の変化に気付かせる。 ・歌うように演奏するための技能の習得ができるように促す。
4	<p>○5音からなる旋律を正確に演奏する。【ソ・ラ・シ・ド・レ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読譜をして階名唱をする。 ・5音の運指を覚え、旋律（「そよ風」旋律1）を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「そよ風」の旋律に表れる上向形や下向形の音階練習をまねっこに取り入れながら、次第に「そよ風」の旋律奏が完成するように範奏を示していく。 ・曲名は知らせず、旋律1のみを示した楽譜を提示する。 ・旋律1の階名唱をさせ、楽譜を見て演奏できるようにさせる。
5	<p>○「そよ風」旋律1を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴を捉える。 ・曲にふさわしい音色を見つける。 ・曲名を知り、曲にふさわしい表現の工夫を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「風」に関わる曲名が付けられていることを伝え、旋律の特徴から、どのような風を表しているかを考えさせる。 ・既習内容を振り返らせ、息の使い方や、タンギングの仕方によって音色が変化することを生かして、曲にふさわしい音色を試行錯誤させる。
6	<p>○音の重なりを感じながら「そよ風」のアンサンブルを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律1, 2が重なり合っていることを理解する。 ・旋律2を演奏する。 ・各旋律のフレーズを意識する。 ・アンサンブルを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音を調和させて演奏できているか意識させるために、拡大楽譜に音が重なる部分を視覚化して示す。 ・演奏に対する自分の思いや意図をもたせてから、グループ（またはペア）で伝え合うことを通して、曲にふさわしい演奏をするための思考を深めさせる場と時間を設定する。 ・前時に見つけた音色を生かして演奏をさせるために、ペアや全体で互いの音色を聴き合う場を設ける。 ・各旋律のフレーズを意識させる。
7	<p>○互いの演奏を鑑賞し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏を発表する。 ・各グループの演奏を鑑賞し、気付いたことを伝え合う。 ・全体で「そよ風」を演奏する。（「そよ風」旋律1, 2） ・学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の前に、練習の過程で習得したことや工夫したことについて伝えさせた後、演奏を発表させる。 ・リコーダーの持ち方や姿勢にも気を付けさせる。 ・各グループが思いや意図をもって表現しようとしたことが、演奏に生かされているかに着目して鑑賞させるようにする。

展開例（本時5 / 7）

本時の目標		旋律の特徴を感じ取って、曲にふさわしい演奏の仕方の工夫をする。
導入	児童の学習活動	指導上の留意点
	<p>○前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • まねっこを通して、音色に気を付けて吹く。 • 「そよ風」旋律1の階名唱をする。 • 「そよ風」旋律1の運指を確認する。 • 「そよ風」旋律1の演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 正しい姿勢や構え方について意識させる。 • ソラシドレの運指に慣れさせる。 • 階名唱をしたり、口でタンギングを表現して歌ったりしながら、運指を確かめさせる。 • 様々なタンギングの仕方や息の使い方を指導者が示すことでリコーダーの適切な演奏の仕方を身に付けるようにさせる。
展開	<p>○どのような風を表している曲であるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 旋律1から感じ取ったことを基に考える。 • 感じ取ったこと理由を、旋律の動きを基に伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> • この曲には、“風”に関係する曲名が付けられていることを伝える。 • 感じ取ったことと旋律の特徴との関わりについて考えさせる。 • 曲名が「そよ風」であることを伝える。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 「そよ風」の曲の感じを生かしてリコーダーをえんそうしよう。 </div> <p>○曲にふさわしい表現をするためにどのような吹き方の工夫をすればよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 個人で考えた後、ペアやグループに分かれ、吹いたり聴いたりして試行錯誤しながら、「そよ風」にふさわしい音色を見つける。 • 音色や響きに気を付けて、曲にふさわしい表現ができるように練習する。 <p>○各グループの演奏を聴き合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • リコーダーの音色やその響きの特性を生かした演奏の仕方、フレーズに応じたタンギングの仕方などを身に付けられるようにする。 • 演奏の仕方を工夫することによって、音色や響きが変わることに、実際に演奏することを通して気づくようにする。 • 工夫した表現を互いに聴き合いながら、それぞれの表現のよさを認め合えるようにするために、表現の変容を具体的に伝えたり、価値付けたりする。
まとめ	○学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> • 演奏の仕方を工夫することによって、リコーダーの音色や響きに変化することに気づき、曲にふさわしい表現をするために必要な演奏の仕方を身に付けることができたかを確認する。